

ブラジル 供給不足がオレンジ果汁の価格を押し上げる

[FreshPlaza 2024年8月19日](#)

ブラジルでは2024/25年度産のオレンジが収穫される中、主要な加工業者は皆、積極的に果実を処理している。しかし、来年度(2025/26年度)産の果実が入手できるようになる前に需要が供給を上回る可能性があると思われるため、市場筋は今後シーズン中に課題が発生すると予想している。エクспаナ(Expana)社のブラジル産オレンジ果汁指標価格(EBP)は、7月31日に前年より74%高い6,780ドル/トンFCA EU(EU内指定場所渡し価格)を記録したが、それ以来、多くの加工業者が濃縮オレンジ果汁を約7千ドル/トンで提供していると報告されている。

主産地で進行中の乾燥した天候とカンキツグリーンング病は、果実の成熟に悪影響を及ぼし、全体的な収量に対する懸念が高まっている。市場関係者らは、オレンジの総収穫量が、Fundecitrus(柑橘類生産防衛基金)による歴史的に低い予測である2億3,238万箱(これは1988/89年度以来の最低生産量となる)をさらに下回る可能性があるかと警告している。

市場筋によると、小売価格がある程度まで上昇すると、需要が減少してそれ以上の価格上昇が妨げられるとの予想もある。市場関係者らは、需要が既に前年比で20%も減少したと報告している。一方、未だ(値上がり前の)低い価格の契約を履行中のスーパーマーケットは、今のところ何とか小売価格を抑え込んでいる。市場関係者らは、購入コストの高い2024/25年度産果実がスーパーマーケットの棚に届き始めていることから、小売価格の上昇につながる可能性があり、状況が変化すると予想している。

出典: mintecglobal.com

(関連記事)ブラジル 7月のオレンジ果汁輸出が減少

[CEPEA 2024年8月16日](#)

セペア*、2024年8月16日 - オレンジ果汁の2024/25輸出年度(2024年7月~2025年6月)が7月に始まり、2023/24年度に減速していた出荷は引き続きゆっくりとしたペースが続いている。ブラジルでは、サンパウロ州とトリアングロミネイロ地区(ミナイス州の三角地帯)でのオレンジ生産量が少ないことが確定しており、供給が限られることから、この状況はすでに予想されていた。同時に、ブラジルの7月の生鮮オレンジ及びタンジェリンの輸入は増加した。(*セペア(CEPEA)は、サンパウロ大学応用経済高等研究センター)

オレンジ果汁の輸出 - Comex Stat(ブラジルの貿易統計)によると、ブラジルは7月に、2023年の同月と比較して38%減となる5万3,400トン(濃縮果汁換算)のオレンジ果汁を出荷した。供給が限られているため、価格が押し上げられた。その結果、7月の輸出額は合計1億9,890万米ドルで、前年7月と比較して9%増加した。

そのうち、非濃縮(NFC)オレンジ果汁の輸出量は16万4,200トン、輸出額は9,645万米ドルで、前年同月比でそれぞれ3%及び55%増加した。冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)の輸出量は2万3,600トン(59%減)で、輸出額は前年比15%減の1億240万米ドルであった。

生鮮柑橘類の輸入 - 生鮮オレンジの輸入量は、国内産果実の供給量の不足と価格の高騰に後押しされ、記録的な水準に達した。Comex Statのデータによると、1月から7月までの輸入量は前年比87%増の3万4,800トンで、輸入額は前年比72%増の2,470万米ドルに達した。タンジェリンについては、1月から7月までの輸入量は前年比96%増の1万4,500トンで、輸入額は89%増の1,565万米ドルであった。

国内市場 - CEPEAが調査対象とする柑橘類の価格は、すべての品種で供給が限られるという予想に支えられて、8月も上昇を続ける可能性がある。この状況は、オレンジ出荷シーズンの最盛期においても確認できる可能性がある。

柑橘類地帯ではオレンジの収穫が順調に進んでいるが、収穫物の大部分は果汁業者に割り当てられている。工場は引き続き高い価格で原材料を購入しており、通常は生鮮市場に出荷している多くの生産者が加工業者にオレンジを割り当てようになっている。このため、暖冬による需要低迷にもかかわらず、生鮮果実の価格は下がらなかった。